



2012年埼玉県生協新春賀詞交換会 各界代表の皆様等70人が出席し 懇親を深めました



埼玉県生協連を代表し、伊藤会長理事が「東日本大震災への支援活動、2012国際協同組合年ではあらためて協同組合運動を発展させる年にしたい」と、県生協連が今年40周年を迎えることに感謝し、来賓の皆様から祝辞や震災への支援活動・消費者行政・食など生協への期待のあいさつをいただき、なごやかに懇親を深めました。

J A埼玉県女性協と埼玉県生協ネットワーク協議会との第17回早春交流会 生産者と消費者の思いや活動を交流しました



県議会各政党・会派との懇談会 東日本大震災への支援活動や国際協同組合年等について懇談

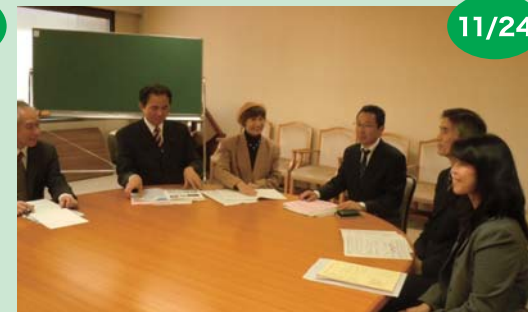
県生協連と会員生協の事業概要、東日本大震災での被災地生協の被害状況と取り組み、埼玉県との災害協定にもとづく物資支援、スーパーアリーナや旧騎西高校での支援活動等を説明しました。また、2012国際協同組合年の目的や計画、消費者のための新たな訴訟制度について意見交換しました。



民主党・無所属の会の14人の議員の皆様と懇談
あいさつする畠山代表



公明党の西山団長、蒲生副団長、権守議員と懇談



日本共産党の柳下団長と村岡議員と懇談

埼玉県消費者団体交流会委託事業 2011年度県内消費者団体地区別交流会 楽しく交流し、元気を充電しました



より身近な地域の消費者団体の交流と相互理解を深め、今後の活動の活性化を目的に3地区で開催し32団体119人が参加しました。加須くらしの会・秩父くらしの会・志木市くらしの会から「地域でいきいきと活動するために・消費者団体の役割について」をテーマに活動紹介、「平成23年度埼玉県市町村消費者行政とランキング」について、埼玉消団連より報告しました。また、参加団体の紹介後、グループに分かれ交流と情報交換をしました。

埼玉県生協役員等研修委託事業 埼玉県生協ネットワーク協議会「公開学習会」 夢をもつことの大切さ、どの命も輝いて いることを学びました



通勤途中の交通事故で4~5時間の命と宣告された又野亜希子氏を講師に迎え「生かされて今～生きることに意味がある～」をテーマに開催し、93人が参加。「手術後、今までできなかったことができず、死ぬことばかり考えました。退院後は、家族や友達を支えてくれ、子どもにも恵まれ、生かされたことの意味、大人になって忘れていたことを思い出しました。夢をもつことで道は開けます。人は支え合って生きています。自分・身近な人を大切に心がけていくことで温かい社会に変えていけると信じています」と話されました。

埼玉県生協役員等研修委託事業 国際協同組合年・期待や役割を 学習しました



講師に協同組合年実行委員会委員の富沢賢治氏を迎え、「国際協同組合年と生協の役割」をテーマに開催し43人が参加しました。協同組合が必要な時代状況になり、国連の協同組合に対する評価は格段の高まりを見せています。社会で一番大切なものは「いのち」です。今後、コミュニティーを大切に組織の連帯が重要になり、協同組合は、そのための最適な位置にあります。そして、地域に密着している生協の役割はますます大きくなっています。

さいたまコープ コーププラザ浦和を会場に 55人が参加。日本生協連から講師 を迎え、東日本大震災への生協の支援 活動や今後の課題、国際協同組合年の 目指すものや協同組合の使命や役割 などをお話いただきました。次に、 J A埼玉県女性協から組織状況や今年 度の活動、各生協の紹介、医療生協 さいたまによる健康体操でリフレ ッシュした後、6グループに分かれ、 今後各自が取り組んでいきたいこと 等を話し合いました。



民主党・無所属の会の14人の議員の皆様と懇談
あいさつする畠山代表



公明党の西山団長、蒲生副団長、権守議員と懇談



日本共産党の柳下団長と村岡議員と懇談

さいたまコープ

組合員の皆さんやさまざまな団体とともに、 復興支援の取り組みを継続します

福島県双葉町の皆さんが避難されている旧騎西高校での毎週木曜日の炊き出しや親子で参加できる「ふたばひろば」、「子どものあそびのひろば」、組合員や職員などのボランティアによる「避難所応援隊」をJAグループさいたま、地域の皆さん、NPOや埼玉大学の学生さんなどと協同して開催してきました。炊き出しや「子どものあそびのひろば」は6月まで継続します。また、県内各地に避難されている皆さんが交流する場を、物資や会場の提供などでお手伝いしています。



熊谷市での「ふるさと交流サロン」(コープ熊谷店にて)

生協パルシステム埼玉



神川町の大豆でお豆腐をつくらう

2月16日、さいたま市のすべーす・ドゥで神川町から生産者を招いて、大豆のトラスト運動のお話などをさせていただきました。大豆のトラスト運動は、組合員が大豆畑の一定区画にお金を出し、生産者とともに国産大豆を作り、できた大豆を食べ、大豆の自給率向上を目指す運動です。学習会では、生産者が2011年度の組合員との交流の様子とトラスト運動について説明。「希少な国産有機大豆を増やすために、トラスト運動をもっと広げていきたい」と話されました。後半は、参加者がめいめいに豆腐作り挑戦しました。

生活クラブ生協

“エネルギーの自給圏づくり”をめざして、 生活クラブ風車がスタート!

生活クラブ首都圏4単協(東京・神奈川・埼玉・千葉)と北海道グリーンファンドの共同事業として進めてきた風力発電事業。3月の試運転を経て、4月から「生活クラブ風車」が秋田県にかほ市で本格稼働しました。原子力に頼らない「エネルギーの自給圏づくり」をめざす第一歩を「風車」で踏み出しました。「グリーン電力証書」の制度を活用することにより、にかほ市で発電した電力を「地産地消」することが可能になりました。



昨年10月、にかほ市に建つ市民風車「風こまち」を視察

医療生協さいたま



平和・医療・福祉への思いを届けよう ～医療生協の虹のバレンタイン行動～

2月14日を前後して、「虹のバレンタイン行動」を行いました。駅頭や商業施設で、医療生協の医療・福祉・平和の活動を知らせたり、まちの声を集めてこれからの活動に生かすために、毎年、取り組んでいます。今年は全県各地で、原発撤退の是非を問う「模擬」国民投票ができるカード約7,000枚にチョコレート添えて配布しました。川口市の駅頭では、あいにくの雨の中でしたが200個を配布、所沢駅では47人の組合員・職員で配布するとともに、「エネルギー政策の転換を求める署名」も行いました。

ひろがる社会貢献活動や多彩な取り組み

埼玉県労働者共済生協

『第39回全労済小学生作品コンクール』 埼玉県表彰式が開催される

2月25日、全労済埼玉県本部会館にて第39回小学生作品コンクール埼玉県表彰式が開催されました。作品コンクールは社会貢献活動の一環として毎年開催されており、今年も作文の部・版画の部に分かれて作品募集を行い、県内55の小学校から作文495点・版画1,650点と多くの応募をいただきました。金賞・銀賞受賞者については、埼玉県表彰式へご出席いただきました。なお、金賞作品については埼玉・東京を始め1都9県にて開催される「中央コンクール」に出品のうえ審査され、最優秀賞6点・優秀賞12点の作品について、3月4日「中央コンクール」表彰式が開催されました。



子どものその保育生協



寒さをものともせず元気に雪あそび体験

この冬は二度の大雪があり、子どもたちはもったにできない雪あそびを体験しました。通園バスが到着するとすぐに外に飛び出し、雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりしてあそびました。また、雪道を散歩に出かけて、一面真っ白になった田んぼで大の字に寝そべってみたり、新河岸川の土手で雪すべりをしたり、普段とは違うあそびに興じていました。子どものその子どもたちは、冬でも外であそんでいるので、こんな冷たい雪の中でも子犬のように駆け回っています。

さいたま高齢協

石巻の子ども達へ本を!!「いい・ばあ」基金(仮称)

昨年4月以降、物資や復興資金の活動を微力ながら行ってきましたが、昨年11月より石巻市渡波地区の仮設住宅自治会との交流が続いています。昨年11月のフェスティバル参加、今年1月22日には、理事の1人がメンバーになっている吉川市の「なまよもちつき隊」の30名の皆様によるもちつきで賑わいました。また、速くからそと孫を見守る「いい・ばあ」の気持ちで本を贈っています。幼児～小学生低学年向けに2回80冊程を贈りました。本を手にした時の子ども達の眼の輝きを想いながら、さいたま高齢協の活動の1つとして続けていきます。



埼玉大学生協・跡見学園女子大生協・淑徳大学みずほ台生協・ 十文字学園生協



県と連携した不当表示広告調査結果報告会と表彰

2月21日、不当表示広告調査結果報告会と知事表彰などが行われました。調査には、6大学生協と1大学そして3高校が参加。調査は、雑誌広告・インターネットホームページ・新聞折り込み広告・新聞紙上の掲載広告などを対象に行われ、報告件数は241件、違反被疑件数は190件でした。商品別の違反被疑率は、ダイエツ・美容・開運が上位を占めました。参加者は「目を引く工夫がなされたものに気づいてしまうので、騙されないように意識を強く持たたい」家族や友達にも日頃から伝えていきたいと話しました。